参考４

経団連自然保護協議会

J-GBFネイチャーポジティブ
行動計画の進捗と構成団体同士での連携

2024年９月９日

経団連自然保護協議会
Keidanren Nature Conservation Council

J-GBFネイチャーポジティブ行動計画の進捗実績（2023年度）

経団連自然保護協議会

①経団連自然保護基金による貢献

- GBFに資する助成方針の改訂、自然保護PJに対する支援の実施、NGOとの交流促進、COMDEKSに関する周知協力

②ネイチャーポジティブ経営の普及

- 「2030年ネイチャーポジティブに向けたアクションプラン」の策定、「経団連生物多様性宣言・行動指針」の改定、各種イベントの開催・協力等

③円滑なネイチャーポジティブ経営推進のための環境整備

- 政府の審議会・有識者会議への参画、J-GBFへの参画、TNFD日本協議会への共同招集者としての参画等

④日本の取組み発信・海外最新動向の把握

- G7ANPE第１回ビジネスワークショップの開催、IUCNリーダーズフォーラムでの登壇、IUCN事務局長との意見交換等

⑤PDCA（毎年の生物多様性アンケート実施による進捗管理・改善）

- 企業の生物多様性への取組に関するアンケートの実施・結果の公表、同アンケート結果の分析結果から得られた示唆を当協議会の活動に反映

※2024年度も、上記に準じた取組を実施、10月はCOP16への代表団派遣も予定

J-GBF構成団体同士での連携取組実績の事例紹介

経団連自然保護協議会

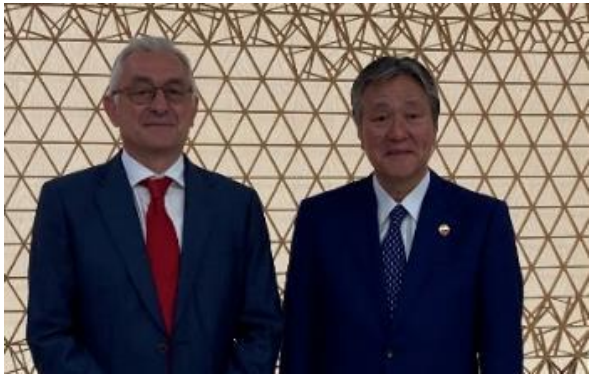
- J-GBF構成団体同士での連携取組として、当協議会は、環境省、国土交通省、IUCN-J、日本自然保護協会、国土緑化推進機構との間で実績があり、これまで案件ベースで32件にのぼる
- 今後とも、ネイチャーポジティブの推進に資するよう J-GBF構成団体との連携の強化をはかる予定

（環境省） G7ANPE挨拶

（環境省） HLPFサイトイベント挨拶

（国土交通省）まちづくりGXシンポジウム挨拶

（IUCN-J）IUCN事務局長との意見交換会



（日本自然保護協会）日本自然保護大賞への協賛

（国土緑化推進機構）みどりの感謝際への協賛

日本旅行業協会（JATA）

ツーリズムEXPOジャパン２０２４にて
セミナー（パネルディスカッションを開催します）

日時：９月２７日（金）　１４時半～１６時

場所：東京ビッグサイト　セミナー会場

タイトル：
「ネイチャーポジティブ実現に向けた　新たな保全地域
環境省認定「自然共生サイト」の観光活用」を考える

登壇者

◎環境省　自然環境局 自然環境計画課　係長
　和田　光央　氏

◎(株)JTB　ツーリズム事業本部長　地域交流担当部長
　毛利　直俊　氏

◎クラブツーリズム(株)　マーケティング本部 営業企画部
　新規事業開発・アライアンスビジネス担当 リーダー
　鈴木　光希氏

◎(株)日本旅行　日本旅行総合研究所　主任研究員
　椎葉　隆介　氏

◎日本旅行業協会　国内旅行推進部
　太田　雅之

日本旅行業協会（JATA）

日本旅行業協会（JATA）

ツーリズム・プロフェッショナル・セミナー

9月22日（木）、23日（金・祝）
東京ビッグサイト東展示棟 Aステージ／
東展示棟 セミナールーム

“プロ”を目指す観光業界関係者向けプログラム「ツーリズム・プロフェッショナル・セミナー」は、
コロナ禍を経てリスタートを図るべく、観光業界のさまざまな視点から必見・必聴のコンテンツを集めて展開され、
多くの業界人が熱心に聴講する姿が見受けられた。

PICK UP！

クルーズセミナー／安全・安心なクルーズの旅

外航クルーズ再開に向け、関係団体の準備進む

「安全・安心なクルーズの旅」をテーマとしたセミナーでは、日本クルーズ客船の松田氏が、邦船3船の船内にPCR検査機器を設置したことなど感染防止策を説明。「安全・安心なクルーズをPRできるポイント」と強調した。JOPAでは外航クルーズを対象とした新型コロナウイルス感染予防対策ガイドラインの改訂を進めており、1日も早い外航クルーズの再開に向けて取り組む方針を示し、シルバーシー・クルーズの糸川氏は、外航クルーズガイドラインの策定とカボタージュ規制、水際対策、検疫体制が日本の課題としつつ、その上で「年末年始の運航再開と、来春以降の本格運航をターゲットとしている」と語った。

国土交通省港湾局の池町氏は、「まずは国際クルーズ用のガイドラインを作成していく必要があり、港湾局として寄港地と船社が安全・安心な環境づくりを進めていけるように支援していく」と、外航クルーズ再開に向け注力するとした。

［講　師］
邦船　一般社団法人 日本外航客船協会（JOPA）外航クルーズ船事業者の新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン改正委員会 委員
日本クルーズ客船株式会社 海務部次長　松田義則氏
外船　日本国際クルーズ協議会（JICC）副会長 シルバーシー・クルーズ日本・韓国支社長　糸川雄介氏
行政　国土交通省 港湾局 産業港湾課クルーズ振興室長　池町円氏
コーディネーター　みなと総合研究財団 首席研究員 沖田一弘氏

PICK UP！

企業・地域それぞれの視点で考えるこれからのワーケーション

企業、地域におけるワーケーションの意義や効果を紹介

新たな働き方や旅のスタイルとして注目されているワーケーションをテーマにしたセミナーが開催され、観光庁の富田氏は「観光需要の平準化に加え、働き方改革、地方創生にも資するのがワーケーション」と挨拶。続いて、ワーケーション受け入れ地域から信州たてしな観光協会の渡邉氏が事例を紹介。「立科町の場合、ワーケーション受け入れの9割がシステム開発など業務中心の合宿」であり、「企業のかゆいところに手が届く、現地環境に詳しいコーディネーターは欠かせない」と指摘した。

YeeYの島田氏は企業の視点から「パフォーマンスを最大限発揮でき、自律型の社員の育成手段」としてワーケーションを評価。日本ワーケーション協会の入江氏は「家族連れワーケーションなら、訪問先が第二の故郷になる」と関係人口の拡大に注目。パソナJOB HUBの加藤氏は「働き方だけでなく、ライフスタイル全般を変革する」と今後への期待を示した。

［挨　拶］
国土交通省 観光庁 観光地域振興部 観光資源課長　富田建蔵氏
［事例紹介・パネルディスカッション］
一般社団法人信州たてしな観光協会 専務理事　渡邉岳志氏／株式会社YeeY 代表取締役 島田由香氏／一般社団法人日本ワーケーション協会 代表理事 入江眞太郎氏／株式会社パソナJOB HUB ソーシャルイノベーション部長兼事業開発部長　加藤遼氏
●主催：国土交通省 観光庁

PICK UP！

第15回産業観光まちづくり大賞表彰式

NPO法人ORGANが金賞、全5団体が入賞！

第15回産業観光まちづくり大賞表彰式が行われ、産業観光拠点「和傘CASA」を端緒とした、伝統工芸岐阜和傘の産業再生への多面的取り組みが評価されたNPO法人ORGANが金賞を受賞したほか、やまなし観光推進機構、横須賀市、越前海岸盛り上げ隊、備前観光協会・みんなでびぜんの全5団体が受賞した。

パネルセッションでは受賞者の蒲氏、仲田氏、倉林氏、田中氏、船橋氏が各プロジェクトを紹介し、審査副委員長を務めた多摩大学の望月照彦名誉教授が受賞した5団体について、「次世代につなげるまちづくりや、どのように産業を再生していくかを考えて取り組んでいる。非常に優れた観光資源を持ち、それが未来をつくることにつながっているエリアではないか」と講評を行った。

［受賞団体］
金賞：NPO法人ORGAN【岐阜県】
経済産業大臣賞：公益社団法人やまなし観光推進機構【山梨県】
観光庁長官賞：横須賀市【神奈川県】
銀賞：越前海岸盛り上げ隊【福井県】
特別賞：一般社団法人備前観光協会
一般社団法人みんなでびぜん【岡山県】
●全国産業観光推進協議会
公益社団法人 日本観光振興協会

■ツーリズム・プロフェッショナル・セミナー タイムテーブル

日時		場所	講演タイトル	主催
9/22（木）	12:30～14:00	1F 東4	アフターコロナの観光戦略と旅行会社との連携について	一般社団法人日本旅行業協会　国内旅行推進部
	12:30～14:00	1F 東5	中小観光事業者向け経営支援のご紹介	一般社団法人日本旅行業協会　総務・広報部
	14:30～16:00	1F 東5	それぞれの「観光」ＤＸ～ＤＸのあるべき姿と観光予報プラットフォームが提供できるデータと機能～	観光予報プラットフォーム推進協議会
	14:30～16:00	2F 東1(2)	ベトナム観光振興開発	ベトナム観光開発基金
9/23（金・祝）	12:30～14:00	Aステージ	クルーズセミナー／安全・安心なクルーズの旅	ツーリズムEXPOジャパン
	14:30～16:00	Aステージ	第15回産業観光まちづくり大賞表彰式	全国観光推進協議会・公益社団法人日本観光振興協会
	16:30～18:00	Aステージ	ワーケーションシンポジウム	ツーリズムEXPOジャパン／国土交通省 観光庁
	12:30～14:00	1F 東4	JALふるさと応援隊が語る地域活動について	一般社団法人日本旅行業協会　総務・広報部
	14:30～16:00	1F 東4	星空を活かした地域ブランディングで新たな観光を興す	一般社団法人宙ツーリズム推進協議会
	16:30～18:00	1F 東4	持続可能な観光評価システムSTARs（Sustainable Tourism Assessment & Review System）	和歌山大学観光学部
	12:30～14:00	1F 東5	「法務セミナー　①ホームエージェント型旅行業者代理業者のすすめ／②個人情報保護法の改正ポイント」	一般社団法人日本旅行業協会　法務・コンプライアンス室
	14:30～16:00	1F 東5	不思議の国ウェールズ＆美味しい国ウェールズ　Try me!/Eat me!	英国　ウェールズ政府
	16:30～18:00	1F 東5	日本酒蔵ツーリズム事例紹介	日本酒蔵ツーリズム推進協議会
	10:30～12:00	2F 東1(2)	JICAセミナー：観光で持続可能な社会をつくる！	独立行政法人国際協力機構
	12:30～14:00	2F 東1(2)	緊急報告　「Z世代の海外旅行意識調査」	一般社団法人日本旅行業協会　海外旅行推進部（協力：アウトバウンド促進協議会）
	14:30～18:00	2F 東1(2)	5年後の観光業「勝ち残り戦略」～大学生と業界人が描く未来図	旅行産業経営塾OB会

日本旅行業協会（JATA）

入場無料

但し、事前エントリーが必要となります。

事前エントリーはツーリズムEXPOジャパンホームページより

業界・プレスの方はこちら →

来場登録・バイヤー

①
業界日来場者登録／バイヤー登録

登録はこちら

来場者情報登録

メールが来ます！

マイページが出来ます

ここから申込ください

JA全中“JAグループ環境調和型農業取り組み方針（「基本的取り組み」の概要）”

全国農業協同組合中央会（JA全中）

「環境調和型農業」の環境分野は、「みどりの食料システム戦略」をふまえ、「化学肥料削減」「化学農薬削減」「温室効果ガス削減」「プラスチック削減」の4分野を基本に、生物多様性の維持・回復やアニマルウェルフェアへの配慮等を含めた範囲とする。
地域実態に応じて具体的な手法は様々であるが（有機農業、草生栽培、天敵農薬など）、4分野の削減は、それぞれ農業分野における環境の負荷を低減し、生物多様性の保全に寄与するものであり、全体的な対策を通じて総合的にネイチャーポジティブに貢献していく。

農場のリスク評価や適切な保管・使用・洗浄なども日常的な環境保全の観点から重要。
JAグループでは「GAP」の考え方を踏まえた「よりよい営農活動」を実践中。

	化学肥料削減	化学農薬削減	温室効果ガス削減	プラスチック削減
水稲	①土壌診断に基づく**適正施肥**によるリン酸・カリの減肥等を進める。 ②土壌の生産性向上等の観点から堆肥等の**国内資源を活用した施肥・土づくり**を行う。	IPM（総合防除）を実践するにあたり、 ①「予防」のための**耕種的防除及び圃場環境づくり**と、 ②「判断」のための**予察・周知の仕組みづくり**を行う。	【品目特有の視点】 ①**「秋耕」＋「中干し延長」**を基本に取り組み、②これらの実践が難しい・有効でない産地においては**これらに代替的な施策**を実施。	被覆肥料について、 ①まずは目の前の流出対策として、**生産者への理解促進（周知）進める。** ②また、中長期的観点から、代替的な施肥手法を中心としたプラ被覆肥料に依存しない施肥体系等を検討。
園芸	【品目特有の視点】 局所施肥など効率的な施肥法や、物理性分析を踏まえた土壌の物理性改良について検討。	【品目特有の視点】 施設園芸・施設果樹を中心に**代替的な耕種的防除**を検討。	※当面は有力な施策の研究状況等を注視する。	【品目特有の視点】 **廃棄プラスチックの適正処理（流出防止）**の徹底。
果樹	【品目特有の視点】 特に新規の造園に際して、事前の土壌分析を徹底。		【品目特有の視点】 施設園芸・施設果樹における**燃料分野での対策**を検討。	【品目特有の視点】 **直ちにできる流出防止策**（浅水代かき・自然落水、水尻回収など）を検討。

	堆肥活用	環境調和型農業で生産された飼料の活用	調整飼料対策	アニマルウェルフェア
畜産	**堆肥の供給を具体的に検討・実践するための協議の場**を設定。	・国産飼料：**国産飼料の活用を具体的に検討・実践するための協議の場**を設定。 ・自家生産：**飼料生産で環境調和型農業**に取り組む。	【畜種特有の視点】 **畜種ごとに優先的な取り組みを検討。**	**総合的な病傷害対策の観点から取り組みを検討。**